

## 令和5年度第2回 大津市スポーツ推進審議会 議事録

令和6年2月14日（水）14：00～15：30  
スポーツステーションおおつ4階会議室

### 出席者

石井 智	びわこ成蹊スポーツ大学
村上 晴香	立命館大学
加藤 素子	大津男女共同参画推進団体連絡協議会
徳岡 明治	大津市自治連合会
田中 俊彦	大津市スポーツ少年団
廣瀬 文夫	大津市スポーツ推進委員協議会
中山 敦生	大津市スポーツ協会
廣納 孝志	東レ株式会社滋賀事業場
道明 翔	公募

### 1 開 会

- ・事務局より、配布資料の確認
- ・過半数の委員の出席（委員12名中9名出席）により、本会議成立についての報告

### 2 部長挨拶

- ・田中部長より挨拶

### 3 会長挨拶

- ・石井会長よりご挨拶

### 4 議 事

議題①「働き盛りや子育て世代のスポーツ実施」における課題について

■議事の設定理由について、事務局より説明

■「大津市の働き盛りや子育て世代のスポーツ実施状況」について

【質問1：働き盛りや子育て世代が運動やスポーツを行うきっかけとなるものは？】

### 質疑応答

会 長：それではまず質問1に対してご意見、ご発言をいただきたいと思いますが、ちなみに事務局では、原因がどこにあるのか把握されていますか。

事務局：はい。質問2の方でも取り上げたいと考えておりますが、いくつか阻害要因というものがあり、大きな要因としては「働き盛りや子育て世代」であれば「子どもに手がかかる」や「収入面でまだ安定していない」というところも問題としてあると考えております。また、そういった世代が運動を行うきっかけについては、市民意識調査では「今よりも体を動かすための条件」つまり運動を行うきっかけとして、「運動スペース」「コミュニティでの参加」「自分に合った運動の発見」が上位に上がっており、これらは大津市に限らず、全国的にも大津市もさほど変わらないというのが所感であります。

会 長：はい。皆さんよりご意見をいただく前に副会長よりマクロの視点で何かご意見あればお願いします。

副会長：はい、ありがとうございます。そうですね。今回いただいている内容というのは、やはり全国的な調査と比べてみても同じような傾向であるというような、印象を受けています。そして、阻害要因のところのお話も少しいただきましたけれど「忙しい」「面倒くさい」というのが、どうしても運動から遠ざかる要因の上位に挙がっています。ただ「面倒くさい」や「忙しい」けれども運動している人はいます。つまり、何かの手だてを私達の方から提案してい

く必要性を改めて感じているところです。今回の内容について私の方から質問をさせていただきたいのですけれども、「身近にスポーツ施設やスペースがあればできる」との調査結果がでているのですけれども、実際の取り組みとしては、「学校体育施設の開放」等、一応、一応というところちょっと語弊がありますけれども、大津市としては取り組みをされているとは思いますが。これについては「スポーツ施設」や「スポーツスペース」といった運動機会の場所を設けていますよ、というような周知の仕方がうまくいってないところもあるのかなと思うこともあります。例えばお子さんが小学校、中学校に行っているような世代ですと、割と学校施設等が開放していることが耳に入ってくるのかなと思います。それ以外の世代の人に向けての周知の方法について、何か工夫されているところはあったりするのでしょうか。

事務局 : 一応、ホームページ等の周知はさせていただいており、それなりに利用者はいらっしゃると思います。ただ、利用者が固定化されているのではないかと懸念は払拭できないところがあると考えております。

副会長 : そうですね。何となくですが、決まった団体の方がやはり毎回毎回の学校の施設を使っているようなイメージがあったりはします。ちなみにそういう団体の方は、やはりその学校に関わるような団体が多かったりするのでしょうか。

事務局 : 特に利用されている方は、学校というよりもその地域でスポーツをされている方、クラブや団体であり、どちらかというと元からスポーツに興味がある方たちが、場所を探して使われるというところになります。よって、今回のテーマに沿って考えますと、興味がない方や面倒くさい方というのは、自分から探しに行ったりはしないかなと考えています。よって、やはりそこに対するアプローチは何か必要ではないかと考えています。

副会長 : そうですね。現状利用されている団体の方が使うようになったきっかけや、そこに参加してきた人の声も拾うために、今利用している施設にどうして来るようになったか、といった側面のアプローチ方法に基づく調査をすると、今まで拾えなかった視点が見えてくると思います。そして、現状利用している団体の方々を巻き込みつつ、よりいっぱい利用してもらえるような仲間を増やしてもらうような手だてを検討していくのもよいのではないかと聞きながら思いました。

会長 : はい。ありがとうございます。次に、実際にマネジメントされている現場として、ご意見いかがでしょうか。

委員 : 大津市のスポーツ施設の充実については、大変不満を持っている1人です。と言いますのは、「国スポ・障スポ」のメイン会場である彦根の平和堂HATOスタジアムを先日ボランティアの関係で、ちょっと見に行ったらすごく素晴らしい施設でたくさんの方が来ておられた。また、草津の今立てておられるプールもすごいプールで、その横にある体育館でこの間インディアカをしましたけれども、それもすごく綺麗な体育館でした。それに対して、大津市の施設は幾つかあるのですけれども、ろくなものがない。皇子山プールのドアなんか建て付けが悪く開きにくい。それから陸上競技場はいまだに第4種ですか。そういう施設についても、ものすごく不満です。やっぱり新しい施設ができると、人が集まってくる。イベントもできる。そこがまず第1点だと思います。それと、そういう施設に有名人を呼んできたりと、そういうことも大事なことで思っております。

会長 : 例えば子どものスポーツの状況で小学校の施設を使えるという話ですが、子どものスポーツの機会が確保できるような場所の数は足りているのでしょうか。

委員 : スポーツ少年団に関わっていますが、スポーツができる場所についてはやっぱり私たち昭和世代だと、どこかに空き地のようなスペースがあり、ボールを使ったり、走ったりいろいろな複合的なスポーツが自由にできました。しかし、今は公園ではいろいろな禁止項目があり、学校も時間的な制限があります。大津市のスポーツ少年団に関しては、全国的に見ても組織的にも運営的にもやっぱり多分トップクラスぐらいの組織を持っていると思いますので、結

構野球とかバレーといった単一のスポーツから、幅広い総合的なスポーツを行う団体までありますので、受け皿はあると思います。そして、指導者不足とかいろいろ言われていますけれども、それ以上に団員の減少が今大きな問題になっています。そこで、スポーツ少年団ではスポーツの楽しさをどのようにして子どもたちに伝えるかを考えたとき、子どもたちだけではなく、やっぱりスポーツ少年団に入るか否かを最終ジャッジするのは保護者ですから、その保護者に対してどれだけスポーツの楽しさを広めていこうということに関して、今、組織で取り組んでいます。

会 長 : スポーツ推進委員の観点から、いかがでしょうか。

委 員 : 私は一応スポーツ推進委員ということで、年間主催として行っている事業が3つか4つあります。その中で、来年の「国スポ・障スポ」のデモンストレーション競技であるスリースマイルゴルフや、スマイルボッチャについて、ある程度主催、共催といろいろありますけれど、もうここ何年と続けてさせてもらっています。その甲斐もあってか、年々少しずつですが参加者が増えてきています。初めのうちは、はっきり言って学区の動員のような感じでお願いできませんか、ということで始まったのですが、一応広報や口コミですかね、そういった活動が少しずつ広がり、今小学生からそのお父さんお母さんという方も一緒にできて、一緒にスポーツ楽しんでもらっています。これは、はっきり言って地道な活動の成果に他ならない。ただ、次の段階である自発的にスポーツを楽しむというところまではまだ到達していません。今後も続けていくことによって、少しずつ少しずつ増えていってくれるかなという感じで今活動しています。

会 長 : ありがとうございます。現場の方々のご苦勞が本当に実を結びつつあるということですが、場所という点につきましては例えば企業の場所は、市民の方に使っていただくのは難しいと思うのですが、どうでしょうか。使えるようにマネジメントできるものでしょうか。

委 員 : 少し話がずれるかもしれませんが、東レの体育館は少女バレーっていうのですかね。その活動に、週2回ぐらい活用いただいています。それから、運動でいえば道場の方も少年の剣道ということで、活用いただいているような格好でございます。

会 長 : 東レであれば、社員の方も結構いらっしゃると思うのですが、社員の方々のスポーツ実施にはその施設は使いやすいですか。

委 員 : そうですね。グラウンドは終業後ですね、いわゆる申し込みがあるので社員のの方に開放して、例えばサッカーをしたりですとか、その他活動に使われたりというような格好になっております。

会 長 : 例えば社員がコーチをしているスポーツチームが使用したりはできますか。

委 員 : 社員がコーチをしているのかは把握していませんが、休みの日に少年サッカーの試合を行うようなケースはあります。

会 長 : はい。ありがとうございます。いろいろお聞きしましたけれど、どうでしょうか。とりあえず意見をいただいたので、次の質問に移らせていただき、合わせてご意見をもう一度伺いするというところでお願いします。それでは、続いて「運動スポーツの阻害要因」について事務局より説明をお願いします。

#### ■ 「運動・スポーツの阻害要因」について

【質問 2：運動継続のため必要なことは何か？また、阻害要因から考えた場合、どうすれば継続できるか？】

#### 質疑応答

会 長 : はい。ありがとうございます。それでは「運動スポーツの阻害要因」ということで、質問2に対してご意見、ご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。はい、どうぞ。

委 員 : 運動継続のために必要なことについては、私自身パーソナルトレーナーとして活動しておりますので、この点はお客様と接する中で非常に課題に感じている部分でもあります。お客様の中には、一定数「痩せたい」や「こういう方の体になりたい」といった理想は持っておられるのですが、その中で、やはり時間の捻出が難しくなると優先順位が下がってしまい結局は続かない方がかなり多くいらっしゃいます。そのあたりに関しては、最近実施していることとして、曜日と時間を指定し、それで実施する機会を継続してもらうと。そうすると結構継続率が高くてですね、やはり歯医者とかでも予約をしていたら行くのですが、逆にいつでも来てもらっていいですよとなると絶対行かなくなると思います。そういった意味でいくと、何かこう、強制じゃないですけども、その時間のその曜日のような形でサイクルを作っていけると、時間を作って継続していけるかな、というのが私自身運動指導を実施しているところでの継続についてのポイントなんじゃないかなと思っております。またですね、先ほど企業の話も出ていたのですが、企業の中でも運動を会社の中で実施したいがなかなか場所がなくどこでできるかわからない、ということもあると思います。最近ではよく健康経営やホワイト500といったところで、優良企業は結構表彰されたり、実際に人材を確保するのに有利になったりということもあると思います。そういった目線も踏まえて評価項目の1つに、運動機会の増進に向けた取り組みを設定する企業もありますので、その取り組みとつなぎ合わせることができれば「その時間がない」や「面倒くさい」というところが、会社単位、企業単位で時間を作っていけると、健康にも繋がって生産性も上がっていくというところで、双方にメリットが生じてくるのではないかなと感じております。

会 長 : ありがとうございます。いいキーワードですね、「予約をする」というのは、今までにない何か面白いキーワード。ただそれは指導者に魅力があるから予約を取って行くというのがありますね。難しいところもあると思います。しかし、キーワードとしてはたいへん面白いと思います。それでは、男女共同参画の女性の目から見てですね、他にご意見ありますでしょうか。

委 員 : 阻害要因である「面倒くさい」のはしょうがないと思うのですが、もっと身近で継続できて、それでいて何となく人が集まれるようなスポーツって何かと、私はまた皆さんと違う観点で考えています。もちろん来年、「国スポ・障スポ」があるけれども、「国スポ・障スポ」はその1年限りのことであって、それ以後に私たち市民とか県民が健康維持するためにスポーツが継続できたらいいなと思うのですよね。普通の一般人の目線からすると、皆さんおっしゃるみたいに私はテニスをしています、テニスコートを借りるのも大変で、なかなか競争率が高くて、すんなりと自分がしたい日にはなかなかできなかつたりと、そういった不具合はいっぱいあります。また、全然違う例なのですが、大津の商店街を歩いておりますと、午後3時に商店の皆さんが外に出てきてラジオ体操をされているのですね。USENが流れているのかな。そういうのってすごく、私はいいなって思うのですよ。商店街は行きたいときに行けて、お店の外に出たら体操ができる。ラジオ体操ってスポーツの基本じゃないですか。だから何か、もう難しいことじゃなくて簡単なことから、継続できたらいいなって考えています。

会 長 : 非常にいい視点だと思います。ありがとうございます。次に、自治連合会では、今現状としてはどういった取り組みをされたりしていますか。

委 員 : 一昨日の夜に学区のスポーツ協会の体育委員や自治会長に集まってもらった上で、今年の区民大運動会に関する意見交換会を、2時間ほど行いました。学区の人口そのものが8,500人足らずですから、もうたかが知れてはいるのですが、ただ、例えば、どうして年に1回の運動会に集まっていだけないかとか話し合うと、コロナのこともあり今年の運動会の参加者人数は、コロナ前よりも観客を含めても半分近くになっていました。その上で、子育て世代の方に多く参加してもらえるように、という話が出るのですが、肝心の競技種目

はもう10年前と同じ種目のままです。そして、これだけ高齢世代の者が増えて参りますと年取ったから出番はないから行ってもしようがない、出場できる競技は玉入れしかない。もうそういった理由で面白くなるわけですよ。だからどうしても足が遠のいてしまう。それがほとんどの意見のようです。それともう1つ、これ忘れてならないのは、やっぱりスポーツ協会や団体を引っ張っていただくリーダーの方が、もう70歳近くになってきています。15年、20年と長い間役をしていただいて、ありがたいことはありがたいのですが、次の世代に繋いでいくことをもうすっかり忘れてしまっている。これは、他の団体も一緒ですけどね。そんな状態であると、例えるなら団体が個人商店のままで終わってしまって、消滅してしまう可能性があるのではないかなあ、という気持ちをこの前の意見交換会のときに感じました。

会 長 : なるほど。そういったきっかけづくりをするための場をマネジメントする人がどんどん、自分たちで若者世代から離れていってしまうと。その結果、なかなか参加しづらいといったことでしょうか。

委 員 : 次の世代の人達の意向や考え方が、やっぱり十分掴みきれていないと思うのです。やっぱり、数ある種目、ニュースポーツも含めていろいろあるのですが、これまで通りでは、もうちょっと歯が立たんような時代に入ってきているのではないかと感じている次第ですね。

会 長 : どうでしょう。現場の指導者というか、リーダークラスの方々にやってもらっていいのですが、やっぱり若い人がそこをサポートし、老若男女でうまくいけばいいのですけれど。現場はどんな状況ですか。

委 員 : そんな詳しくはないのですが、大津市36学区の団体長の中には、早く交代されるところもあれば、もう10年、20年とずっと長いこと続けておられる方もいらっしゃいます。会長同士が話しているのを聞いていますと、早く代わられるところは、「あんたどこ世代交代できていいね、新しい若い子も入れていいね」と、言われます。交代できないところは、それなりにもう無難な運営で特に大きな問題も発生しないので、今まで通りずっとやってきたら淡々と行事はこなせるのです。参加人数が少なくなってくるかもわかりませんが、でも、やっぱりある程度世代交代は絶対しなければいけないと思います。かつて私も団体長を10年ほどやってたのですが、私は10年以上やっては駄目という考えを持っていましたので早く交代しました。やっぱり、会長さんが交代すればまた考え方も違いますし、それなりに若い人も入ってきますしね。やっぱり世代交代は大事なかと、現場では思いますね。

会 長 : それは、規約みたいなもので任期の縛りがあったりするのですか。

委 員 : ないですよ。

会 長 : なるほど。各団体にもうお任せなのですね。そこに何かヒントがあるといいのですが、難しいでしょうね。

委 員 : 規約を作って任期を10年とか15年に決めてもいいかもわかりませんが、それはもう大津のスポーツ協会がそんなこと提唱できませんので、各単位団体に決めていただけたらいいと思いますけれどね。

会 長 : 「面倒くさい」や「なかなか忙しい」というのは、ぱっと浮かんでくる阻害要因ですけど、組織ごとの問題というか、やっぱり活動自体がボランティアですから、ほんとにありがたいことなのでなかなかやめてくださいと言いつらい状況がね、よくわかります。よくあります。大学の野球のOB会もそんな感じでよくわかります。そこになにか阻害要因の1つがあるかもしれないですね。ありがとうございます。先ほど意見が出ましたけれど、企業の健康経営という観点からコメント、いかがでしょうか。

委員：年に1度の駅伝大会を場内で今年4年ぶりに再開しました。駅伝大会は、年齢別に5区ぐらいに分かれましたね、女性も入って、今年は30チームぐらいですかね。事業場内で、昼休みの時間やります。駅伝大会の前にはやはりみんな練習をして、かなり上位のチームでは本格的でその部署で予選会までして選手選出するといったことが伝統的に続いております。また、例えば先に申し上げたかもしれないですが、グラウンドゴルフのようなことも年に1度実施したり、そういう年間スケジュールを決めて、部署ごとのスポーツ対抗のようなことを継続しております。やはり今回は、その駅伝大会が4年ぶりに開催してよかったなと思ったのは施設のこととも関係するかもしれないですが、やっぱり事業場の中でも私どもが集まる会といったら高齢のものばかり集まる会議になるのですが、駅伝大会で集まると若い人がたくさん集まって、すごいエネルギーを感じます。やはり、それがまた何か新しいきっかけとかになると思います。こういったことが、市の単位ですとか学校の単位で取り組みなされることもあればと思いましたので、ご参考までに申し上げます。

会長：はい、ありがとうございます。いろいろね、まだまだご意見いただきたいところではありますけれども時間も限られておりますので、「働き盛りの子育て世代のスポーツ実施における課題」について、まとめさせていただきたいと思います。「きっかけ」「阻害要因」それぞれについていろんなご意見いただきましたけれども、事務局にて今回の皆さんの意見を踏まえてですね、適切な加筆修正をお願いしたいというふうに思います。その上で、さらに検討を重ねまして今後のスポーツ実施に努めていただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。本当に「きっかけ」については、アナログですけれども会社であれば館内放送であるとか、我々も覚えがありますけれど、朝に天突き体操をやったりみんなで行いますでしょ。何かそういうきっかけで行うとやっぱり気持ちいいですね。あとは「忙しい」という要因につきましても例えば子どもが参加することをきっかけとして、親も一緒に運動をすることとかね。そのためには、やっぱり施設をお願いしたいというとなかなか難しいと思いますけれども、ただ、皇子山球場のようなすばらしい施設についてはね、子どもたちがどんどんその場所へ日常生活の中で行けるようにしていただければ、そして子育て世代の人たちが日常生活の中で利用できるとかね、そういったものがあればすごく運動機会が日常生活に浸透していくのではないかと思います。いい意見ありがとうございました。さらに、「予約」という考え方、予約することによって運動機会を習慣化していくような、そして参加できるようないろんないいアイデアをいただきました。事務局としても、それをまとめていただいて、施策に反映いただければなというふうに思いますのでよろしく申し上げます。

では続いてテーマに移らせていただきます。議事2のですね、「国スポ・障スポ」の認知度の向上について、事務局より説明をお願いします。

#### 議題②「国スポ・障スポ」の認知度の向上について

■議事の設定理由について、事務局より説明

■「国スポ・障スポ」認知度の状況について

【質問：どのような啓発活動が、より認知度向上へと繋がると思いますか？】

#### 質疑応答

会長：ただいま事務局から「国スポ・障スポ」の認知度についての説明がありました。「どのような啓発活動が、より認知度向上へと繋がると思いますか？」ということで、このご質問についてご意見、ご発言いただきたいと思いますと思いますが、まず、副会長に全体的な感想も含めてお願いします。

副会長：ご説明ありがとうございました。令和5年度の市民意識調査では、認知度が7.8%上昇したということで、すばらしいコツコツとした取り組みが実を結んできている、というような印象を受けました。また、今まで体育団体や自治連合会の方を中心に広く認知をさせていこうというところで行っていた周知活動をさらに広げて「介護フェスタ」や「ポリスフェスタ」といったところへの取り組みも非常に認知度の上昇に効いているのかな、というような印象も受

けました。でもやはり、欲を言えばもう少し認知度を上げたいところだなと思いますので、今後のいろいろ予定もされているかとは思いますが、一時期に集中させて1年前だとか1年半前だとか、そういうところで一気に集中して取り組むような手段方法があってもいいのかなあとと思いながら、聞かせていただきました。あとは関わっていただける団体さんをぜひフォーカスしていただいて、それによってやはり本人さんたちも、この「国スポ・障スポ」に向けての密な関わり合い方もできるでしょうし、またその周りにいる人たちも、巻き込まれていくかと思しますので、そういった形でぜひ進めていただきたいなというふうに思いました。以上です。

会 長 : ありがとうございます。それではスポーツの現場を持たれている委員のお二方にも、お聞きしたいと思います。

委 員 : 正直まだピンときてないのですけれども、徐々に盛り上がってきていると私も実感します。先ほど副会長もおっしゃったように地道な活動をしていただいているので、盛り上がってきた感覚はあります。スポーツ協会もチラシ等をたくさんいただきますのでその効果があるかもしれません。私どもの地元でも競技が2種目開催されますので、また連合会を經由して「国スポ・障スポ」に関するお話も聞きますのでね。盛り上がりつつあると思います。

会 長 : 現状で地元の人たちが行きやすいようなインセンティブというかそういうものは、用意されていたりするのでしょうか

委 員 : 今の段階では、まだまだ「国スポ・障スポ」がありますよ、というPRに留まっていて具体的な段階ではありません。

会 長 : 他にはいかがでしょうか。

委 員 : 国スポ・障スポ大会局の皆さんから、「国スポ・障スポ」に来てもらうための施策、例えば大津市の会場で行う競技がある時にはスタンプラリーします、景品と交換しますよ、といった物で釣ると言う用語がありますが、つまりはきっかけ作りがあり、それを飲食店で行ったりする。そうしてまずは来てもらう。そして、その良さを知ってもらうと、次に繋がっていくと思います。

会 長 : なるほど、良い意見だと思います。他にはいかがでしょうか。

委 員 : すみません。私は、地元でどの競技が行われるとかあまり知らないです。でも、これは一般市民の人たちも同じだと思います。私が個人的に思いますのは、例えばボッチャがあるなら、ボッチャしませんかと、周りの方々に周知して、ボッチャというスポーツがどういうものかを体験していただく。そしたら、見に行こうってなると思います。私はそういう形が、市民目線では理想だと思います。

事務局 : 国スポ・障スポ大会局大会総務課の方では、現在、先ほどおっしゃられたことも含めPRしております。また、競技会場はすべて決まっておりますので、どこで何が行われるかも周知しております。ただ、実は今回この審議会でお話をさせていただいたのは、まさしく今おっしゃっていただいていることについて悩みがあり、我々がコンタクトをとりやすい団体や自治連合会には、周知したり回覧をお願いしたりということは行っているのですが、市内には情報が届きにくい方もかなりおられることも認識しております。また、加えてスポーツにもともと関心のない方々もいらっしゃるため、その方々へはなかなか広がりにくいということも認識しております。私たちの力不足でなかなか皆さんところに届いていないのですが、実はその情報が届きにくい層へどのように情報を出せばいいのか、今おっしゃっていただきました競技の体験も含めて意見をいただければと思っております。

委 員 : 一般市民は知らないのですよ。だからスポーツに長けてらっしゃる方々のルートだけをね、

一生懸命強化されてもたくさんの人の目には留まらないと思います。回覧版も重なって回ってきましたあまり見ないのですよ。何かもっと上手に宣伝していただきたいです。

会 長 : はい、ありがとうございます。私もある競技の協会の方でよく知っている人がいるのですが、なかなかね。協会によってはなかなか上手く動いてくれないっていうか、バイアスや地域などやっぱりいろいろと動きの良い悪いというのがあるようです。ありがとうございます。では、自治連合会レベルで一般の方々に向けて回覧版等の周知方法を実際に行われていると思うのですが、どうでしょうか。ご意見いただければと思います。

委 員 : 現在の自治会加入率がですね、当然、各36学区によって大きなばらつきがあります。ひどいところは、もう加入率が30%すれすれのところもあつたりします。なかなか自治連合会を通して啓発活動や周知を図ろうとしても十分に行き届かない。それと回覧をもう見ない人が半分以上ですよ。回ってきたら、そのまま回すとか、回すのを忘れてしまって1週間から10日間そのまま放置していたり、とにかく見る人が少ない。私の学区では、昨年から回覧板に代わって公式LINEを使っています。大事な配布物は、二重になることもありますが紙媒体と一緒にLINEでも回すようにしています。まだ、十分に周知できない部分はありますが、徐々に公式LINEの登録者が増えてきていますので、だからそういう意味では、あともう2年もすればね、自治会員さん全員まではいかなくてもそれなりに達成できるかなと思うのですけれど、悲しいかな、私の学区では加入率が62%なのです。ですから、4割近い人たちには情報が行き渡らないのです。その対策は考えていかないといけないなと思います。

会 長 : その4割近い人たちというのは、例えば独居老人やひとり暮らしの方も含まれているのでしょうか。

委 員 : 含まれています。一人暮らし、1人世帯、高齢世帯、2人世帯の高齢世帯も増えています。そして、子育て世代の方々でも自治会に入っていない人は多いのですよ。

会 長 : それでも、ちゃんと従来の回覧に加えて公式LINEの両方でされていることは、やっぱり素晴らしいことだと思います。やはり、全ての人へというのは難しい状況ですけど、情報が欲しい人に届かないという状況は何とかなしたいところでもあります。はい、ありがとうございます。ここまでのいろいろと議論が白熱しておりますけれども、やっぱり私自身は認知度も大事だけれど、いかに「国スポ・障スポ」へ来てもらうかで先ほどおっしゃったようにやっぱり要は地元で開催されるのだから、その地域住民は競技を見に行きやすく、或いは見たいなと思うような啓蒙をしていただければと。マクロな視点でどれだけ認知度があり、どれだけ関心と呼ぶかよりも、まず地域の人たちに見てもらい参加してもらおうということが大事だと思います。最後に私から伺いたいのですが、ボランティアの勧誘というか組織の状態というのはいかがでしょうか。

事務局 : この議題2の資料にも記載したように、現時点でボランティアは広報ボランティア、運営ボランティア、美化ボランティアの3種類のボランティアを募集しております。資料右上から2つ目の表、令和6年1月末時点での数値ですが、運営ボランティアは現時点で確認していますと今200名弱。資料の1月末時点から40名ぐらいは増えており、徐々に増えているというような状況です。会長もおっしゃっていただきましたけれど、ボランティアを我々は「国スポ・障スポ」成功のキーだと思っております。各団体様へのお願いはもちろんですけど、市内の大学へも徐々に説明しております。おそらく若い世代とか、地域のいろんな活動に参加されるような方が、これからの情報発信のキーになるのではないかと、ということをして1つの仮説としまして、お願いに回っているところです。地域のコミュニティの繋がりが今も多様化していますので、例えばSNSで繋がっている方も含め皆さんの個別の力も貸していただきたいということをお願いさせていただいています。特に団体様の方には、ご協力をお願いしておりますが、個別にも声かけをさせていただきたいと考えているところです。

会 長 : ただ、広報活動については方法論もそうですがやっぱり人が集まる拠点、例えばスーパーや



ショッピングモール、他には理髪店。そういった場所では、そのマスターに言っておくと髪切りながらいろんなことをしゃべるじゃないですか。そこで発信してもらおうと結構耳に入ってくることもあります。あくまで一例ですが、様々な方法を上げていただいてPRや認知度っていうよりも、いかに来てもらうか、良さを分かってもらうか、或いはそれを契機に運動をしよう、スポーツが見に行きたい、と思えるような繋がりとかストーリーが出来上がればと思います。よろしくお願いします。はい、それではですね時間も限られておりますので議題2についてまとめさせていただきます。周知から啓発へということで、様々なご意見をいただきましてありがとうございました。本当に、多岐にわたるご意見をいただきまして、ぜひ組織委員会、実行委員会の皆様にはですねご理解いただければと思います。今年の6月からは各競技のリハーサル大会の開催もあります。大会の盛り上げということについてはいかに興味関心を惹きつけるのか、いかに参加できるようにしていくか、これらが課題になると思いますが引き続き検討をよろしくお願いします。それでは最後に本日の議事以外のことでも結構でございますので、1人ずつ発言いただければと思います。よろしくお願いします。

委員：本日は、大変貴重な機会ありがとうございました。本当にたくさんの意見を聞きながら私自身知らなかったことや、あとは私自身もちょっと感じたところでいくと、最後の議題で「国スポ・障スポ」の認知度向上のところで、私自身ジムで働いていて、そしてこの審議会に携わっているからこそ、「国スポ・障スポ」のお話をお客様とできたりもします。例えば、ジムへの展開や大津市内のスポッチャ、ラウンドワンといった場所を利用される方にはもちろん運動が好きで「国スポ・障スポ」をご存じの方もいらっしゃる一方で、全然知らない方もいらっしゃると思います。そういったところも踏まえて、周知・啓発を広げていけると、よりたくさんの方に「国スポ・障スポ」を知ってもらえるのではないかなと思いました。以上です。ありがとうございました。

会長：ありがとうございました。次に、スポーツ協会よりお願いします。

委員：私は、スポーツ協会として審議会に参加させていただいているのですがけれども、スポーツ協会の中には、競技団体、それから各学校の体育団体の加盟団体がたくさんございます。そういう媒体を利用させていただいて、どんどん発信していきたいとこれからも思います。スポーツ協会宛てでたくさん資料をいただきますので、その都度発信させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

会長：ありがとうございました。次にスポーツ少年団よりお願いします。

委員：私もスポーツ少年団として審議会には携わっていますけれども、スポーツ少年団に関わっている子どもたち、親、指導者に関してはこの「国スポ・障スポ」の認知度は高いと思います。ここから、そのお父さんお母さん、子どもたちの輪をしっかりと広げられるようにもっともっと堅いイメージじゃなくて、1回見に行きたいな。皇子山球場、大石のテニスコートへ行こうというような話に盛り上げられるような話題作りをしていければなと思っております。本日はありがとうございました。

委員：私もありがとうございました。一般市民として、やっぱり伝えるってことも大事だと思いましたので、今日学ばせていただいたことを、井戸端会議風に広げていきたいと思っております。ありがとうございました。

委員：本日は、ありがとうございました。「国スポ・障スポ」ですね、滋賀県では前回は1981年なので44年ぶりですかね。スポーツ課並びに国スポ・障スポ大会局の皆様には半世紀に1度のイベントであり、もうまたとない機会だと思いますので引き続き推進の方をお願いします。それから、私ども企業ということで参加させていただいておまして、「国スポ・障スポ」に関しましては、協賛企業の点からも可能な限りお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会 長 : ありがとうございます。

委 員 : スポーツの実施ということでまず一つの議題の課題がありましたが、やっぱりスポーツというのは皆さんが楽しくできる。これが一番だと思います。それによって、「国スポ・障スポ」を見に行く人もどんどん増えていくと思うのですよね。それによって、これに携わるボランティアもまた増えてくるのではないかなと思います。1つお聞きしたいのがですね、おもてなしボランティアというのはございますか。

事務局 : おもてなしボランティアというのは設けておりませんが、ただ運営ボランティアの方でおもてなしの取り組みにご協力いただくということがあります。また、地域の方には学区自治連合会を通してふるまいの取り組みを、リハーサル大会も含めて、お願いしているところです。

委 員 : あと大津市の場合は連絡協議会というのがありますよね。体育協会の。ただ、今のところそこが何も知らないと仰っていました。ぜひ、そちらの方にも早め早めにボランティアの説明をやってもらえると、急に言われてもできませんよ、とおっしゃっていました。

事務局 : ありがとうございます。また、連絡協議会の方にも連絡させていただきます。

委 員 : 今日はありがとうございました。

会 長 : それでは、次に自治連合会よりお願いします。

委 員 : はい。ありがとうございました。先ほどの「国スポ・障スポ」の広報ボランティアさんが令和6年1月末時点で37人と載っておりますけれども、来年の本番に向けて、この広報ボランティアをですね、和邇学区でもできれば募集して、多くの人に啓発活動とか広報活動に協力していただけるようお願いをしようかなと思っています。来月もちよっとイベント等を行いますので、そこでまたボランティアの募集もさせていただきたいと考えています。幸い昨年和邇学区では、ボランティア協議会を立ち上げてまして様々な活動を支援していただくようなボランティアを募集しており定着させていけたらと思っています。この「国スポ・障スポ」はもう次なかなか回ってきませんよね。そう思いますと、もしかしたら人によっては、一生に一回のボランティアになるかもわかりませんので、できるだけたくさんの方にボランティアに参加していただくような、例えば広報チラシであったりとか、啓発の物品であったりとか、そうしたこともさせていただけたらと思っていますので、また詳しいところを教えてください。よろしくお願いします。

会 長 : ありがとうございます。副会長どうでしょう。

副会長 : はい。本日は大変ありがとうございました。皆様から非常に有意義なご意見聞けたのではないかなと感じております。スポーツ実施の方に関しましてはですね、大津市だけではなく全国的な課題にはなっているところだと思います。でも今日聞いていてやはりこの「面倒くさい」や「忙しい」というバリアをどうクリアするかというのは本当に必要だなと思います。今日の意見の中にあった商店街でのラジオ体操の話がすごくいいなと思ったのですが、何かしらふとしたきっかけに運動することができて、それで気持ち良いなあと次で次の行動に移るような、何かそういうものがあるといいなと思いました。そして、それが決まった時間に行うような「予約」のような仕掛け、というところもまた非常に継続のポイントところに繋がっていくといいなと感じました。「国スポ・障スポ」の方は本当に皆様のおかげといたしますか、皆様のご尽力によって少しずつ認知度上がってきているかなと思っております。ただ、やはりそこだけではだめですので、ぜひこの来たいと思っていただける方も増やしつつ、そして来ていただくことがきっかけになって実施率の向上に繋がればと思いました。私も大学教員をさせていただいておりますけれども、学生がこういったボランティアに関わることは将来的な彼らの成長にも繋がるかなと思うので、そういった観点からもいろいろとご協力させていただければと感じております。以上です。

会 長 : はい。ありがとうございました。ぜひ、大学にはお願いしたいと思います。それでは、委員の皆様どうもありがとうございました。今日は2つ議論させていただいて、スポーツ実施についてはポーツ課さんご努力もお聞きしましたけど、やはりその「忙しい」や「面倒くさい」という阻害要因については、いかに生活の動線の中に組み込んでいくことが必要であると思います。例えば、すばらしい指導者に、予約をとりながら習慣づけていくといったやり方や、また、商店街とか企業、学校といった小さい部分から習慣づけのような取り組みを、ぜひやっていただければと思いました。「国スポ・障スポ」につきましては、確かに天皇杯・皇后杯は大事かとは思いますが、一番大事なのは市民の方々がいかに参画し、スポーツ実施率が向上し、或いは、住みたいまち、訪れたいまちとしての大津、市民の誇りとなる1つのきっかけだと思うのです。それは、「国スポ・障スポ」というのは目的ではなく、あくまでもきっかけとしていい街を作っていく。そういう意味では、障スポのボッチャの話もありましたけど、ボッチャ競技は高齢者の方もやりやすく、また非常に頭を使います。やりだすと、面白い。そういったニュースポーツの普及も含めて、滋賀県もそうですけれど大津のまちは、自然、環境、歴史、もうすべて揃っているわけですから、もっとシティプロモーションに繋げていただければなというふうに思います。

それでは本日の議事を終わらせていただきます。長時間にわたりどうもありがとうございました。また、円滑な議事運営に協力いただきありがとうございました。では進行を事務局にお返しします。よろしく申し上げます。

## 5 閉 会

- ・事務局より事務連絡